

図書館だより

第28号

鹿児島国際大学附属図書館報

The International University of Kagoshima Library

— 目 次 — contents

- Book of Life ～私と図書館～ 2～3p
「図書館だよりによせて」 竹内 規浩
「私と図書館」 牛島 廣治
- 挑発する書架 野中 哲照 4p
- あなたのお悩み解決し隊!! (第4回：図書館ははじめの一步) 5p
- 私の1冊 ～マクマレイ・ゼミ推薦本～ 6～7p
- Library Report 8p



わたしと図書館 ~Book of Life~



大学院経済学研究科 竹内 規浩

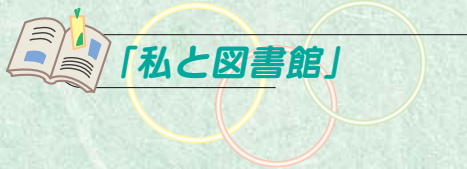
読書にはさまざまな目的があり、目的によって本の読み方が異なることは、いまさら説明するまでもありません。ここでは私の「知的楽しみ」としての読書の一端を紹介したいと思います。

私は幸運にもほぼ30年にわたり世界の色々な国を訪れる機会に恵まれました。その旅行を通じて感じたことは、自然や風景はもとより人々の生活が非常に多様性に富んでいることでした。そのような経験のなかから、人間生活の多様性はいったいどこから生まれてきたのだろうかという疑問が私の頭を占領するようになりました。推測すると、一つは地理的な条件（気候風土など）への住民の対応ではないか、もう一つは歴史の影響ではないか、と考えました。

これで説明ができるのか、自分の限られた体験からは十分には判断できないと思い、できるだけ広く本を読んでもることにしました。読みながら各地の遺跡や博物館を訪れ、「世界地理と歴史」を読書の領域に設定しました。しかし読書するといっても、どの国の何時の時代の歴史を紐解くのか、体系的に準備して取り掛かることはできません。いわば手当たり次第に、たまたま出会った（といっても出会う努力はするのですが）本を読む、濫読する、という方法をとりました。このような方法だと、今日は20世紀のアラブ世界を、明日は16世紀のフィリッピンを読むというように、話が非常に飛び飛びになることが避けられません。そこで私は自分の頭の中に一つの座標を設定し、横軸に国々を、縦軸に時代を置いて、どの国の何時の時代を読んでいるのかをいつでも位置づけられるように努めることにしました。さらにもう一つ、これは全く私の独断と偏見に過ぎませんが、一つの仮説を設定しました。それは、生物としての人間は地球上のどこでも、どの時代でも、本質的には変わりはない、言い換えると、例えば1000年前のエスキモーと現代の日本人とでは、脳の大きさは変わらない、ということです。その前提で歴史を読むと、異なった時代の記述であっても人間と自然との係わり合いという側面ではきわめて連続して理解することができるように感じます。

地理と歴史という領域を設定しても出版物は膨大な数があります。私の読書は「楽しみ」が主体ですから、できるだけ読みやすいものを選ぶ。新書版がちょうど手ごろです。幸い、中公新書が世界の地理や歴史に関するテーマを多く取り上げていますし、岩波新書にも同様なものが少なくありません。岩波文庫や講談社学術文庫にも優れた作品がたくさんありますので、ややレベルは高くなりますが、ここからも選ぶことができます。本は中身が勝負だという事実はありますが、整理のためには、大きさ・体裁も非常に大切です。それで私は、まず新書版と文庫版を中心として収集し、書棚に陳列して（いつも目に付くように）、それ以外の文献は別途分類・保管することにしています。このような読書からの結論は、まだ出ません。多分、出せないうちに私の時間切れとなるのではないのでしょうか。





大学院福祉社会学研究科 牛島 廣治

最近、大学の図書館には行く時間がない。しかし専門のジャーナルで私に必要な新しい情報は大学院生がインターネットを用いて図書館経由で定期的にチェックしPDFで送ってくれる。自宅でジャーナルの論文を読むことが多い。図書館に時間があるときに行くのは休日自宅近くの市立図書館である。中学生～大学生のころは世界の名著、日本の名著などを買って（買ってもらって）自宅で読んでいたが、最近は一般の本は市の図書館を利用して借りて自宅や通勤の途中で読むことが多い。図書館に来ている新刊を読むこともある。

まれに図書館に注文し購入してもらい読むこともある。自宅が専門書や報告書などで一杯の事もあるし、自分で一般の本を買いにいくのが面倒なこともある。市の図書館で見る自分の専門以外の本は、心豊かにしてくれると共に、専門への新しい発想を起こさせてくれることがある。また、本ついでにラジオは自分で場面を想像できるので面白い。

ところで、最近は子ども、特に幼児に絵本を読ませようとの運動が盛んである。絵本はカラフルで絵を見るだけでも楽しい。また文章も簡潔で、心温まる内容が多い。本を通した親子のふれあいとしても大切である。未来を築く子どもに大切な媒体である。話は変わるが東京上野公園のはずれに国際子ども図書館がある。国際子ども図書館は、わが国初の国立児童書専門図書館である。重厚な明治・大正期の建物を改築してある。また、子どもと本の出会いの場を提供し、子どもの読書に関わる活動を支援する場所である。そこにある本を見るとそれぞれの国で作者が子どもに何を伝えたいのかわかるし、教科書などは国の教育方針が伺える。東京にもこんな場所があるかと再認識するような静かで落ち着いた場所、お勧めしたい場所である（インターネットで検索ください）。子ども関係の研究者が東京にこられたときに訪れる場所でもある。



ちょっとひと息

図書館トリビア

米国シンシナティ大学で、1823年に貸し出され、1968年に返却された本がある。

借りた本人が亡くなっている所以詳細は不明だが、図書館側でも最初の数ヶ月は督促をしていたようだ。しかし、担当者が変わり、その本の存在は忘れ去られた。そして145年後の1968年、シンシナティ医科大学図書館の印が押された本を発見したひ孫が、本を図書館へ返却したのだった。**返却はお早めに!!**

（*インターネットより）

ちょっとひと息では、図書館トリビア、
なぞなぞなどをご紹介します。
息抜きにどうぞ！



挑発する書架

附属図書館長 野中 哲照

本学の図書館は、カウンターで「入庫申込書」に書いてもらいさえすれば、学生も簡単に閉架書庫に入ることができます。**どんどん閉架書庫に入っていたきたい**のです。それは、カウンターでの図書の出納が面倒だから、直接図書を取ってきてほしいということではありません。書架を眺めながら**書庫の中を散歩していただきたい**のです。

開架でも閉架でも、図書館の本は〈分類〉されています。〈分類〉は「県→市→町」のような住所と同じで、大きな分類の中が中くらいの分類に分かれ、さらにその中が小さな分類に分かれています。この〈分類〉のおかげで、あるグループの図書が同じ書架に並んでいるのです。

OPAC検索で探した図書をカウンターで出納してもらおうと、〈探していた1冊〉しか手に入れることができません。ところが、自分で書架に足を運ぶと、〈探していた1冊〉以外に、その**仲間の本が周囲にずらりと並んでいる**のです。たとえば、書架の前に足を運ぶと、「児童福祉」というキーワードでOPACの〈件名〉検索をすると555件もヒットして、全部は見きれません。〈タイトル（書名）〉検索ですと1冊にしかたどり着かず、〈件名〉検索だと多すぎるのです。ところが、1冊の本を手がかりにして書架に足を運ぶと、ちょうどいいぐあいの近い分野の本が〈隣〉にあるのです。それが〈分類〉というものの威力です。**〈分類〉された書架が利用者に刺激を与え、挑発しているのです**。〈分類〉を担当した図書館職員は、利用者が〈探していた1冊〉の〈隣の本〉にまで手を伸ばしたとき、「ああ、この〈分類〉でよかったのだ」と、ほくそ笑むのです。

私も、学生時代から今に至るまで、どれほどたくさんの〈隣の本〉に手を伸ばし、どれほどの刺激をもらったか知れません。**〈隣の本〉によって知見が広がり、思考が深まる**という経験をしてきたのです。



ちょっとひと息

なぜなぜ

かもめのジョナサンには、2羽の兄がいる。
この兄たちの名は？

（答えは次のページ）

* 『世界なぜなぜ大事典』

（大修館書店、1984）より



あなたのお悩み解決し隊!!



第4回：図書館はじめての一步 ～使いこなせば自信になる!! もっと輝く図書館ライフ～

■レベル1 OPACで調べる ～あなたを導くOPAC号!～

* 図書館には62万冊という膨大な資料が!! 自分が探している情報をより早く・簡単に手に入れるために、OPACをうまく活用しましょう。本のタイトル・著者名・キーワードなどを入力すれば、あなたが探したい本がきっと見つかります。

本を1冊発見。

■レベル2 十進分類法(NDC)をつかって探す ～なるほど! ザ・図書館～

* 図書館の本は、一定の規則「日本十進分類法」にしたがって並んでいます。(文庫や新書など一部 例外もあります) 分類が大体わかっているならば、直接、見たい内容の書架の前へ行くことができます。各フロアには、十進分類法の表がありますので、ここで確認してください。

分類を確認後、OPACで再検索。
+3冊発見!
* 合計資料数: 本 4冊

■レベル3 書架に行って直接探す ～漕ぎ出せ! 知識の海へ～

* 図書館の資料は、日本十進分類法の規則にしたがって並び、本棚であなたを待っています。自分が探し出したい資料はどの分野に属するかを確認後、棚まで歩いてみましょう。1冊だけでなく、ヒントとなる本が、同じ棚から見つけ出せるはずです。

レベル1、2で見つけた本+3冊
Get!
* 合計資料数: 本 7冊

■レベル4 本の参考文献から探す ～本はつながる・広がる読書～

* 手に取った1冊の本。文章だけを読んで情報を得た気になっていませんか!? その本のあとがきや、参考文献資料のページまで目を通せる人こそ、情報の達人です! 同じ著者の他の著作、雑誌の論文などが記載されています。関連するキーワードや、新たな視点に繋がります。

本5冊+雑誌の論文3点をGet!
* 合計資料数: 本 12冊
論文 3点

■レベル5 目録から探す ～本を探す本との出会い～

* 目録とは、本に関する情報を一定の基準に基づいてまとめた、“本を探すためのもの”です。たとえば、『映画・音楽・芸能の本全情報』は、映画・音楽・芸能について書かれた本をまとめた冊子体目録です。このように、目的やテーマ別に、様々な目録が作成されていますので、求めるテーマの内容にあった本を、効率よく探すことができます。

+3冊の本をGet!
* 合計資料数: 本 15冊

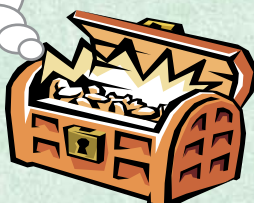
■レファレンスカウンターへ行ってみる ～図書館SOS!!～

レファレンスカウンターでは、資料の探し方、データベースを使った雑誌記事などの代行検索を行っています。資料がうまく集められない、雑誌記事の探し方がわからないなど、図書館で困ったときには、カウンターへ行ってみましょう。

雑誌論文5点をGet!
* 合計資料数: 論文 8点

資料数合計

* 本 15冊
* 雑誌論文 8点



ちょっとひと息(こたえ)



ジョナサン(3)の兄だから、
かもめのジョナイチ(1)、ジョナニ(2)

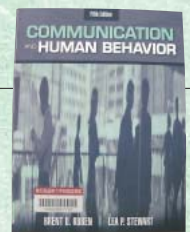
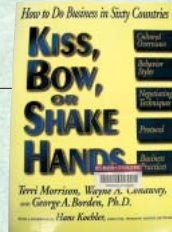


私の1冊 ～アクアレイ・ゼミの推薦本～

私達のゼミでは、図書館ガイダンスを経て、本の検索方法や利用法、閉架書庫の利用法などを学びました。そこで学んだことを活かし、それぞれ1冊ずつ自分たちの研究に役立ちそうな本を借りました。私たちは「Human Behavior and Communication (人間の行動とコミュニケーション)」を研究テーマにしています。借りた本の中には、一見このテーマに結びつかないようなタイトルの本もあります。しかし、どの本にも私達の研究のためのヒントが隠されているのです。ここでは、私たちが借りた本を紹介したいと思います。

*『KISS, BOW, OR SHAKE HANDS』 (385.9-MT//3F--一般書架)

Terri Morrison, Wayne A. Conaway,
George A. Borden, Ph.D. 著
Adams Media Corporation 1994年



この本は、世界の国々の歴史的背景や習慣、コミュニケーション・スタイル、文化などの情報が国別にたくさん載っています。そのため、国と国とを比較し、その違いを見つけることができ、世界の国々の文化の違いなどを調べるのにとても便利な本です。

この他にも、『Communication and Human Behavior』、『Canada Project in Kyushu symposia (九州シンポジウムにおけるカナダプロジェクト) vol.2』など、私達のテーマにぴったり当てはまるような本もたくさんありました。

国際文化学部言語コミュニケーション学科3年：丸田 文

*『英語多読完全ブックガイド』(830.7-FA//3F--一般書架)

古川昭夫、神田みなみ、小松和恵、畑中貴美、西澤一著
コスモピア 2005年



この本では、英語で多読するのに適した本を紹介しています。英語初級者でも英語を楽しむ方法として、多読を薦めています。自分のレベルに合わせて、たくさん本を読むことで、楽しく英語力を高めることができます。この本を参考にして、いろんな本を読んでほしいです。

国際文化学部言語コミュニケーション学科3年：渡辺 由香里

*『Management by Culture』(336.1-JF//3F--一般書架)

F. Landa Jocano 著
Metro Manila 1999年



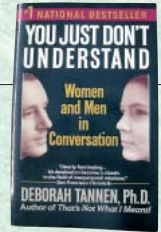
この本は、文化による経営についての本です。主に、経営者や監督者が振舞い、働く姿勢が、フィリピンの価値の文化の基礎を、より良く理解するのを手助けするというのが書かれています。

国際文化学部言語コミュニケーション学科3年：中園 悠太

*『YOU JUST DON'T UNDERSTAND』(361.45-TD//3F-一般書架)

Deborah Tannen 著

講談社 2003年



この本は、私達が普段使っている女性と男性との間での会話についての話です。普段、異性とあまりたくさん話せない人もいます。この本には、どうしたら異性と会話ができるかということや、人間の性格などについて書かれています。違う言葉、違う文字でも、どのようにしたら、きちんと相手に伝わるのかなど、細かい部分まで書かれています。会話が苦手な人でも、この本を読めばためになると思います。

国際文化学部言語コミュニケーション学科3年：柿内 亮芳

*『Dying in a Japanese Hospital』(490.14-YF//3F-一般書架)

山崎章郎著、Yasuko Claremont 訳

Japan Times 1996年



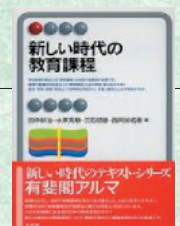
わが国では現在、死因の第一位を占めているガンのために、毎年二十万人の人たちが、この世を去っています。これは、日本人のうち、四人に一人がガンで死亡していることも示しています。実際にガンで死ぬということはどういうことなのでしょう。この本では、ガンを宣告された後、人々がどのような人生を送ったのかが、とてもリアルに描写されています。「もし、自分の身にそれが起こったら…」、そう考えたとき、恐怖で震えがとまりませんでした。

国際文化学部言語コミュニケーション学科3年：伊勢 敬子

*『新しい時代の教育課程』(370.8-TK//2F-一般書架)

田中耕治、水原克敏、三石初雄、西岡加名恵 著

有斐閣アルマ 2005年



第二次世界大戦後の「新教育」期、高度経済成長に呼応した「現代化」期。今は、終息に向かい「ゆとり」が提起される時期になりました。それらは「教育課程」の見直し時期でもあります。特に学校教育の問題では、「学力低下」「不登校」「学級崩壊」など、今までの中でもかなり深刻です。このような状況の中で「教育課程」を問いたすために、現状を知り、これからの日本がどのように改革していくべきかを示した本です。

国際文化学部言語コミュニケーション学科3年：坂下 晃



Library Report



夢に向かってテイクオフ ～司書講習終了報告～

『先生達、受講生の皆様方、たくさんの方々に支えられて今日の最終日を迎えることができ本当に嬉しいです。苦しさもあったけれど、知識を得るのがとても楽しかったです。じっくり図書館学が学べる生徒さんたちがうらやましいです。もう一度、学生になって、もっとたくさん学びたい！と思いました。まだまだ現場にでるには足りません…。本当にさびしいですが、頑張りたいと思います。』これは今年度司書講習生の閉講式後の一感想です。

ところで、司書講習の授業は1科目ずつ集中して講じられます。出席は厳格にチェックし、欠席が5分の1以上あると、その科目の単位は修得できません。そんな講習を大学新卒から、ずいぶん前に卒業したような方々まで、約2ヶ月の間、朝から360時間の授業をみっちり受け、おまけに試験やリポートの嵐をかいくぐって無事に講習を修了することは体力的にも精神的にもかなりハードなことだったろうと思います。



今年は35名の司書資格者が誕生しました。しかし、図書館専門職となる司書資格(修了証書)を得たといっても、今は最低限度の図書館知識しかありません。「図書館に入るチケットを手にしただけ…」と称する人もいます。名実共に図書館の専門職と呼ばれるには、今後の絶え間ない研修と経験が必要です。「勉強するって、本当に楽しいです！この講習を終えて、もっと意欲がでてきました。」これも今回アンケートの回答です。35名の皆さんが、一日でも早く図書館の専門職と呼ばれる日が来ることを期待しています。



新スタッフ紹介

情報整理係：新町 美和

本年4月から図書館職員として勤務することになりました。情報整理係で洋資料の目録を担当しています。皆さんが資料を手にするまでに、選書から始まり、受入れ・目録・整理・配架という様々な過程があること、また、大学図書館は日本全国繋がりが有り情報交換・相互貸借を行っていることなど、すべての図書館業務の根底には、利用者へのより良い情報提供があります。皆さんの資料探しのお手伝いが少しでも出来るよう頑張ります。

情報整理係：福永 秋実

今年の4月から図書館で勤務させていただいています。

馴染みのある場所で社会人1年目を迎えることができ、大変嬉しく思っています。その一方で、学生時代は知ることがなかった、図書館業務の大変さや奥深さを痛感しております。先輩方のご指導の下、自分の仕事に誇りと責任を持ちながら一生懸命頑張ります。そして、図書館を利用してくださる方々により良い環境を提供できるように、日々の業務に努めてまいります。

編集後記



今年もまた、1年が終わろうとしているこの時期の刊行になってしまいました。

今回は、必要な資料を入手する基本的な方法について、簡単ではありますが、まとめてみました。ネットで手軽に入手できる情報だけでなく、図書館をゆっくりと歩いて、これまで気づかなかった新しいものを見つけてみませんか。

最後になりましたが、忙しい中、原稿を書いてくださった皆様、本当にありがとうございました。そして、早々と原稿をいただいていたが、刊行が遅くなってしまったことをお詫びいたします。(E.M)

図書館だより－鹿児島国際大学附属図書館報－ 第28号 2007年12月15日発行

鹿児島国際大学附属図書館 〒891-0191 鹿児島市下福元町8850

TEL:099-263-0732 FAX:099-261-1198 E-mail:tosyokan@ofc.iuk.ac.jp

(URL) <http://www.iuk.ac.jp/iuklibrary> (携帯URL) <http://iuk02.iuk.ac.jp/nbp/index.html>